

# 浦和大学発

## 研究レポート

□9□

浦和美園駅4番バス停は、これまでの人生で経験した災

害の話の話を伺い、複数回の被災

降所です。それとともに、今から立ち直る契機をどのよう

に活かすかを知るために調

査を続けています。この調査

ですが、東北高速バス「遠

野・釜石号」の乗車停留所

から分かってきたことは、岩

手県三陸沿岸地域に暮らす人

々や家族にとつて、東日本大

震災の津波被害が初めての被災

地帯です。私は、2020

年3月まで岩手県に住んでい

ました。昭和8年の三陸大津

育ててきたということでしょう。ぶことがあります。そしてその

た。被災を転機に、新たな仕の次の話では、今回の東日本

事始める女性や次世代の生大震災からの復興の「見通し」

業を継承させず、雇用の生経済成長期の経験を参照して

活に転換させる家族戦略を取未来予想が語られる場合が多

### 竹村祥子 社会学部現代社会学科教授

## 浦和美園駅4番バス停から

かつてきました。

た。

平成23年3月に起きた東日 また東京大学社会科学研究所

本大震災の被災体験を女性に所を中心とする研究チームが

伺っていると、昭和20年7、行っている釜石地域における

8月の艦砲射撃の被災状況と「震災の社会的記憶」を継承す

その復興過程の経験に話が及るための研究「震災の記憶才



研究チームメンバーが行った身としては、コロナ感染防止

「釜石市民の暮らしと復興に

を考るとなかなか三陸沿岸

訪ねることはできません。

浦和美園駅4番バス停か

和大学に通う日々ですが、今

夏休みにな

にも、震災の社会的記憶としれば、釜石に伺えるのではな

て受け継がれていて、それが

た空を仰ぐ今日この頃です。

とが分かりました。聞き取り

夏には、東北道高速バスに乗

調査はまだ続けていこうと思

つて三陸の海近く、釜石へ聞

ています。浦和大学に着

き取り調査に出かけたいと思

任して、東京住まいとなつた

います。

たけむら・さちこ 中央大学大学院文学研究科社会学

専攻博士課程後期単位取得退学。岩手大学名誉教授。2

020年3月まで盛岡市に在住。専門は、家族社会学。

岩手県三陸沿岸地域に暮らす女性からの聞き取り調査を

継続している。